

ランキング×学生募集

学生調査の結果を有効活用し 教育と募集広報の見直しを

自学の課題をあぶり出す5つの分析観点

本年3月、「THE 世界大学ランキング日本版2022」が発表されました。総合ランキング上位の顔ぶれは前年とほぼ変わりがなく、総じて安定した結果だったと振り返ることができます。そして、この“安定”という言葉は、日本の全ての大学の教育力にも当てはまります。「教育充実度」のスコアの基になる学生調査における大学の評価は、コロナ禍があったにもかかわらず、過去5年間、順調に数値が伸びています【図表8】。各大学の教育力の維持・向上に向けた努力の成果が反映されたと言えるでしょう。

自学の学生調査の結果データと参加大学全体の平均値は、ランキングに参加した全大学に提供されます。これらは、自学の課題発見と解決のための手がかりになるため、ぜひ有効活用したいもの。ここでは、学生調査結果の有効活用のためのポイントを5つ紹介します。

1つ目のポイントは「自学の結果と全体平均との比較」です。最新の結果を比較するだけでなく、過年度とも比較するのがよいでしょう。例えば、全体平均が前年と比べて上がっているのに、自学のスコアが下がっているような場合、早急にその要因を探るべきです。

2つ目は「取り組んだ施策との比較」です。大学が教育力向上に積極的に取り組んでいるにもかかわらず、スコアが伸びていない場合、それが学生に伝わっていないか、「学修成果」が十分に上がっていない可能性があります。教育面の施策の検証が必要でしょう。

3つ目は「自学の推奨度の確認」です。学生調査の質問項目⑦は、「自学を友人や家族に勧めるか」、質問項目⑫は、「大学を選び直すことができたなら現在通っている大学を選ぶか」をそれぞれ聞いています。これらが低ければ、学修者本位の教育への転換がまだ発展途上だということ。特に質問⑫のスコアが低い場合、ミスマッチを起こしている学生が少なくないとも考えられ

(株)進研アド 改革支援室

柴田 聡子

しばたさとこ●(株)ベネッセコーポレーション大学事業部、シンガポール、英国勤務を経て2018年より現職。大学の国際化を支援。



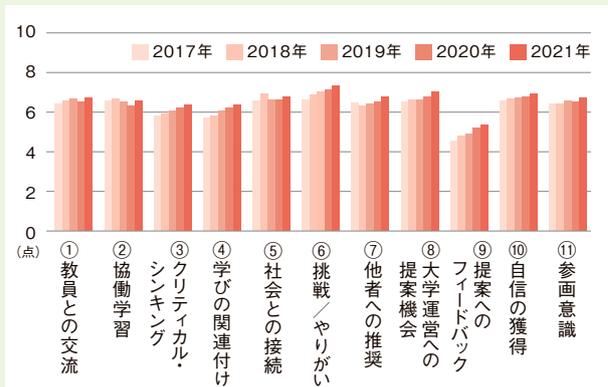
ます。募集広報や入試のあり方を見直すべきではないでしょうか。

4つ目は「『教育充実度』のスコアとのバランスの確認」です。「教育充実度」のスコアは、高校教員への評判調査も反映されます。学生調査の結果が高いにも関わらず、「教育充実度」のスコアが低い場合、高校教員からの評判がいまひとつということ。教育面での見直しや高校向けの広報手法、提供する情報について、見直しを図りましょう。

5つ目は、「他大学との比較」です。ランキングに参加するメリットは、自学の立ち位置を分野別に見極められるということ。同じ地域で「教育充実度」のスコアが高い大学があった場合、その大学の強みを分析し、自学の改革の参考にすることも必要です。

このように、ランキングは順位結果に一喜一憂するものではなく、自学の教育のあり方や学生募集に関する課題をあぶり出すために使うのが本来の目的です。有効活用できていない場合は、この5つの観点からデータ分析を始めてはいかがでしょうか。そして、まだエントリーしていないようであれば、次回はぜひご参加ください。

【図表8】学生調査の主な質問の平均値推移



*THE世界大学ランキング日本版学生調査結果より。①②…は【図表6】の質問内容のNoを示す